

地域住宅生産者グループ No.229

気仙建築研究所

地域型復興住宅の名称	対象となる地域
気仙の家	陸前高田市、住田町、大船渡市

グループの特徴とメッセージ

心落ち着いて住み続ける住宅を目標として設計・施工を心がけています。又、住み続けるためには強固な構造でなければいけないと思います。

私達、気仙建築研究所は100年住み続けることが可能な住宅を目標としています。住む人々の生活の変化にも対応出来るような住宅を常に基本としています。

又、住宅は経済効率だけで建てるのではなく、美しくならねばならないはず。美しい住宅だからこそ、住み手は住宅を大切に心落ち着いた住宅で過ごせるはずだと確信しています。

グループの基本情報

グループ名称	気仙建築研究所
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町永沢 北清水59-6
結成年月	2011年12月
グループ形態	任意団体
主たる業態	設計事務所・工務店
グループ構成 ※各事業者名 は別紙	合計23社 原木供給 : 3社 製材 : 1社 建材流通 : 3社 プレカット : 1社 設計 : 1社 施工 : 6社 その他 : 8社
代表者名	菊地 建 (金ヶ崎建築設計舎 代表)
主な受賞歴・ 活動内容等	・平成22年 グッドデザインエキスポ2010 出展

※グループ構成員の受賞歴・活動内容

地域型復興住宅の主な工法・価格帯

主な構造・工法	木造軸組工法
価格帯	1,500~2,000万円
価格の基準面積	100㎡
価格に含まない 項目	屋外工事費、外構工事費、 設計料、諸手続費

*価格は、地域・プラン、仕様によって異なります。
詳しくはお問い合わせください。

グループ全体の施工実績（年間）

建設戸数*（木造戸建）	30戸
うち地域材活用の住宅	20戸
うち長期優良住宅	0戸
グループとしての 施工実績	なし
グループとしての地域 型住宅の受注可能戸数	30戸
自由記入欄 (上記以外の実績等)	古民家の改修

※参画する施工業者の建設戸数の合計

連絡窓口

担当者名	菊地建	メール	archi-kanegasaki@ceres.ocn.ne.jp
電話番号	0197-44-3162	FAX	0197-44-3416
ホームページ			
自由記入欄			

地域型復興住宅

気仙の家

地域型復興住宅のイメージと特徴

■伝統工法による家づくり

構造材の継手・仕口は金物に依拠せず、
 栓と木材相互の組合せ（例えば渡り腮、追
 掛大栓継ぎ）で構造を組み立ててゆく。柱
 は4寸角以上を標準とする。梁・桁などは
 可能な限り、長尺材（12mm、約40尺まで）
 を使うことで、剛性を高める。

木の構造材は構造として見えなくなる
 のではなく、見せる・見えることによっ
 て木造住宅の美しさが生きてくる。木構造
 が見えることで住み手は気持ちの安らぎ
 を得られるはずではないだろうか。

又、地元の気仙杉・松を使うことで、材
 料に対する安心感も得られよう。



代表的事例の概要

構造	木造軸組工法	床面積	1階：186 m ²
設計	金ヶ崎建築設計舎	施工	有限会社 佐藤工務店
施工費	3,000万円（設計費用は除く）	備考	—

設計方法や地域材活用に関する特徴

■ 設計の特徴

バリアフリー化については玄関の段差、座敷と廊下の段差以外は床にレベル差を設けない（畳と板間の段差の解消も可能）。

便所も家族の加齢を考慮しての設計施工を心がけている。

建物内部の建具は建物にあわせて地元の建具職人に材料などを相談し、作ってもらう。

主に活用している地域材について

地域材の名称	気仙材
樹種	杉、アカマツ
産地	岩手県気仙地域
認証制度等	県産材認定証明
主に取扱う材種	無垢材、集成材
主に取扱う部材	柱材、梁材、羽柄材、内装材
自由記入欄	地域型復興住宅では地元の気仙材を可能な限り活用した住宅を供給します。

性能・仕様および施工方法等に関する特徴

■ 設計手法

風の通り抜ける家を常に心がけている。風が通り抜ければ、熱は建物に籠らずに外に抜けていく。それ故、よほどのことのない限り冷房をエアコンに頼ることはあり得ない。

暖房はマキストーブを提唱している。住宅の計画さえ良ければ、暖房は薪ストーブだけで済む。省エネルギーの観点からみても良い。燃料となる薪は何処からでも入手可能である。



地域住宅生産者グループ

気仙建築研究所

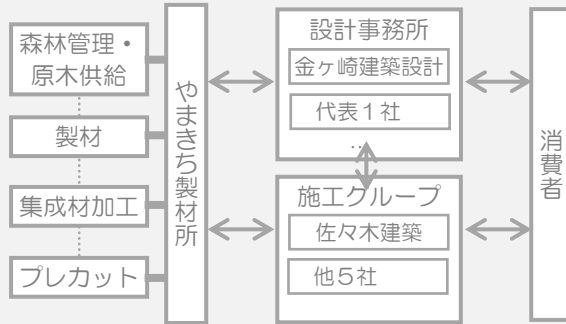
地域型復興住宅の生産供給や流通資材の調達に関する体制

■ 地元の材を積極的に利用する

原木は気仙杉、松を供給する体制が確立しており、製材も地元の製材業者が行う。又、依頼があれば住み手の持山を伐採して用材とすることも充分可能である。木材を除く建設資材は地元に出発点を置く業者が納品できる体制である。



気仙建築研究所 ネットワーク体制



施主からの相談体制および維持管理（アフターサービス）の体制・取組み

■ 地元の業者の利点

施主からの相談体制は連絡が有り次第、直ちに設計事務所が施主を訪問できる体制である。又、施工業者が地元なので、設備の点検・建物の維持・管理も即応できる体制である。

建物も年月を経て周囲に溶け込んでいき、近隣の風景をつくっていく。

その間、手をいれていきながら大事に住んで頂きたいと考えています。

その為に、安心して相談できる地元の業者であることを約束します。

